



甲賀流忍術屋敷と望月家

甲南町教育委員会

生涯学習課 長峰 透



甲賀流忍術屋敷外観

1 建物のあらまし

滋賀県甲賀郡甲南町は、お隣の伊賀と並んで忍者の里として知られています。甲南町は滋賀県南部に位置し、小高い丘陵が複雑に入り組み、隠れ里のような雰囲気を持った地域です。北西方向に望むことができる山なみは近江屈指の山岳修験道場、飯道山^{はんどうさん}で、この山を中心に中世以来修験道が大変栄え、この地域に特長的な宗教的風土が芽生えました。江戸時代の俳人松尾芭蕉の「山蔭は山伏村のひとかまえ」という句はこのあたりの景観を詠んだものと言われています。

そうした山伏村のひとつに竜法師^{りゅうぼうし}の集落があります。どこにでもありそうな集村ではありますが、細い路地を入ったところに甲賀流忍術屋敷望月家が建っています。この屋敷は見た目はごく普通の茅葺民家のように見え

ますが、「現存する唯一の忍術屋敷」と宣伝されて、現在は観光客で賑わっているのです。

では、忍術屋敷の職員さんに内部を案内していただきます。

「この建物は正面から見ると普通の平屋建てに見えるのですが、中は三階建てになっています。平凡な普通の農家に見せかけておいて、すべてからくりは隠れたところに用意されています。」

「二階は極端に天井は低くなっており、ここでは刀を振り回して立ち回りができません。登り口はなく、隠しハシゴや押し入れの中の忍びハシゴがあるだけで、一人しか上り下りできないわけです。追いかけて来た敵が見つけても、普通の押し入れに早代わりするのです。忍者といっても決して攻撃的なものではなくて、外敵から身を守ることに重点をお

いておりました。忍者が持ち歩いた道具もごく簡単なもので、服装も濃紺の忍びこみやすいものでした。」

「こちらに一枚の間仕切り戸がございます。引き手もない非常に重たい檜の一枚戸で、壁がわりの役目を果たしています。入ることも出ることも困難ということは、主人が住んでいた部屋を防御するということの他に、侵入者をうまく捕らえてやろうという目的があったのです。」

「これが忍び窓です。上と下に簡単な鍵が付いていて、懐紙や名刺を一枚すつと差し込むだけで窓を開けることができます。自分さえ外へ出て戸をパッと閉めれば鍵が落ちて追っ手は開けられないというわけです。また、隣の扉を開けると分家の方に通じる地下道があって、蓋をしておくとなだの押し入れになるのでございます。」

「この戸にもたれてくるつと廻ると、どんでん返しになっているのです。どんでん返しは半回転したところで止まり、あちこち押している間に逃げてしまう、時間稼ぎの仕掛けなのです。そして、奥の床をめぐっておけば、落とし穴に落ちるといふわけです。追いかけてきて勢い良く襖ふすまを開けると床がない……、



階上から降りる部分

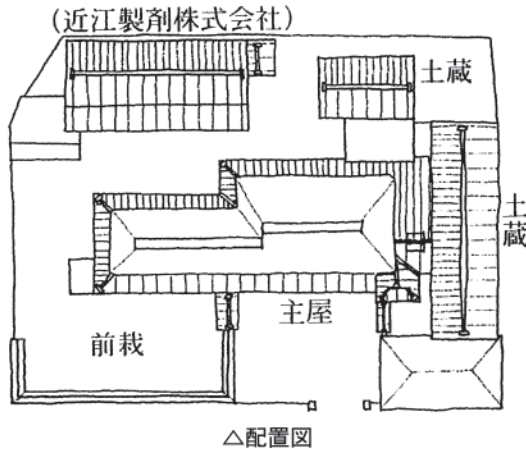


押し入れ床下の仕掛け

床の下は井戸となっております。セメントもない時代のことで粘土質の地面をくり貫いて掘られ、現在も水が湧いておまして、この屋敷はこの井戸をめぐる攻防があったと言われております。」

といった具合に忍者の姿をイメージできる流暢な案内を聞くことができます。

ここで、もう少し建物の概要を見ておくことにしましょう。かつては、このあたり一帯が屋敷地で正面には石垣で組んだ大門とその外側には堀があったと言われます。大門は明治になって甲賀町滝の民家へと移転されました。現在の敷地面積は約700坪ほどあり、建物部分は桁行10.8m、梁間8.3mで入母屋造の茅葺の家屋で、主屋と落棟で続く座敷、そして土蔵とで成り立っています。現在忍者グッズを売る売店部分にかつては入口と土間があったと思われまます。また、観光客が出入りしている部屋が仏間で、正面の陳列ケースには以前は仏壇が据えてあり、南側に8畳と6畳の座敷が続いています。この屋敷の中央部分には案内にもあったように襖に囲まれて井戸が掘られており、普通の屋敷には見られない特異な構造を見せています。土蔵の扉も三



「滋賀県の近世民家」平成10年3月より
(滋賀県教育委員会)

重構造で、二つある扉の一方を動かすと敷居が下がり鍵穴が合うといった仕掛けも見られます。また、押入れ内部を通して二階に上がることができ、格子窓の入った天井の低い中二階や広い上屋があり、こうした様式から19世紀前期に建てられた民家建築と推定されます。

では、そもそも忍術屋敷は誰の家屋だったのでしょ。この屋敷は望月本実氏の旧宅で、十二代目までここに居住され、代々本実の名を襲名してこられました。本実家では、分家を1号2号と号数で呼んでおり、これは中世の甲賀武士に見られる同族結合「同名中惣」の名残りかも知れません。そして各分家どうしは、なんと地下道で結ばれていたと言われていいます。本実家は薬の製造販売を生業とし、各地を廻りながら個人宅に薬を置いてくる配置売薬業者として知られており、現在も近江製剤株式会社が所有されています。ここでは万金丹や万病感応丸、中には忍術玉などという薬も製造され、屋敷の中で袋詰めなどの作業が行われていました。

しかし、この住居が一躍脚光を浴びるのが昭和30年のことです。地元の郷土史家によってまぎれもなく忍術屋敷と紹介されるやマスコミにも積極的に取り上げられ、見学者も相次ぎ、観光施設として公開されるに至るのでした。

2 望月家について

望月本実家に伝わってきた系図の中に「滋野三家は海野、望月、祢津、是なり」とあり、望月氏が信州の豪族の一つであるとし、七、九曜星を家紋とすることが記されています。真田十勇士で有名な信州上田の真田家もその同族だと言われています。また甲南町柑子に伝わる「滋野三家望月正統系図」では「望月三郎は信濃佐久郡望月郷城主で、近江国甲賀郡で戦功あって六万石余りを領有し、重俊甲賀へ分地し、後改め望月甲賀三郎源兼家」とあり、また「兼重望月治郎は甲賀郡塩野村に居住し、父兼家はこの所（塩野村）に諏訪大明神を勧請。甲賀望月の惣社」としたことが記されており、また「伊勢参宮名所図会」などの地誌類では平将門の乱の功績で甲賀の地を賜ったとあります。これらの文献史料は史実と伝承とが混乱している点が多々あるのですが、いずれにしても望月氏の出自が信州佐久地方と関連のあることが伺えます。さらに信州と交流があったことを示す不思議な伝説に、甲賀の英雄が信州諏訪の神様になったのだと説く「甲賀三郎伝説」があります。甲賀望月氏が祖と仰ぐ甲賀三郎兼家は兄たちにだまされて地底の国に落とされ、遍歴の末に地上に戻った時は姿は蛇体に変っていたが、観音の力で人間の体に戻り、やがて諏訪大明神として祭られるのだという伝説です。これは望月氏の伝承をもとにして創られた、「諏訪の本地」という名の説話として知られており、江戸時代には歌舞伎や浄瑠璃に取り上げられるまでになります。このことと関連して望月氏が奉祀した諏訪神社が今も甲南町塩野に祭られています。

3 望月氏の活躍

望月氏が武士として登場するのが、長享元年（1487）の足利9代將軍義尚の近江進軍の時だと言われています。延暦寺領等の莊園押領をくり返していた近江の守護六角高頼を討

つために義尚自ら近江に出陣、栗太郡^{まがり} 鉤に陣を張った時でした。その本営に望月出雲守が他の甲賀武士と共に夜討をかけ、神出鬼没の働きをしたとされます。この戦に参戦した甲賀武士を後に甲賀五十三家、特に軍功があった者を甲賀二十一家と称するようになります。望月氏も鶴飼氏や服部氏らと共に杣五家に属し、佐々木六角氏を支える有力な武士団として杣庄地域で勢力を持つようになりますが、その後も永禄11年の信長上洛の際、甲賀郡に逃れて来た六角承禎、義治父子を援助した望月義棟、寛永14年の島原の乱で原城探索に活躍した望月平太夫、甲賀百人組として江戸青山に詰めていた望月組など武士として活躍する者が多く出ています。

しかし、江戸時代になり太平の世が訪れると、竜法師の望月氏は山伏として興味深い活動をしました。三代日本実の頃（1670年頃）には「万金丹」や「人参活血勢竜湯」という薬の製造に携わり、さらに伊勢朝熊山明王院^{あさまやま}に山伏として所属します。そして明王院のお

札を配り、「朝熊の万金丹」という薬を携えて各地を廻っていたのです。これらの家では、叶坊とか主殿坊とか坊名で呼ばれ、忍術屋敷は本実坊と呼ばれていました。しかし、明治17年に配札禁止令が出され、お札配りという宗教活動と売薬が分離された後は望月合名会社を設立、そして明治35年に近江製剤株式会社となり今日に至るのです。

最後にもう一度忍術屋敷に話を戻しましょう。今見てきたように、近世の配札、売薬業としての活動を併せてみると、からくりと言われているものの中には、防御の目的だけでなく、薬を密かに保管するためのものではなかったかと思われるところもあり、天井裏などは薬の保管場所に最適でした。なぜなら当時、薬は神薬で製薬法は秘伝とされていたからです。しかし、それにしても数々の仕掛けは何のためのものだったのでしょうか、どうしてもナゾとしか言えない部分が残ります。この家は農家というよりは、修験山伏の家屋でした。山伏が南北朝期以来、軍事目的のために諜報活動をしていたことはよく知られており、その意味ではこの「山伏屋敷」はまさしく「忍者屋敷」だったと言えるでしょう。本実家には「忍術應義傳」なる忍術の巻物が伝わっていて、こうした伝書も含めた甲賀忍者たちの史実に基づく解明が待たれるところです。

さて、時代は下って明治になると起伏に富んだ天然の要害とも言えるこの地は、軍隊の格好の演習場となりました。隠れるのに都合よく、攻めるのにも難しかつての忍者の里は、そのまま近代の戦略にも応用されました。その時、陸軍の本部が置かれたのが他ならぬこの望月屋敷だったのです。



薬の看板

滋賀文化財教室シリーズ No.207号

発行年月日 2003年1月31日
編集・発行 財団法人 滋賀県文化財保護協会
〒520-2122 大津市瀬田南大萱町1732-2
TEL (077)548-9780 FAX (077)543-1525